

# 日本語と韓国語における呼称の対照研究序論

林 炫 情

広島大学大学院 国際協力研究科 大学院生  
 広島県東広島市鏡山1丁目5番1号  
 広島大学大学院 国際協力研究科

## 1. はじめに

お互いを呼び合うときにどのようなことばを選択するかは、両者との間にどのような関係が成立しているかを表す指標となるものである。とりわけ、日・韓両言語社会において呼称の選択は、大変気を使う部分でもある。

通常、同国人同士でのコミュニケーションでは暗黙の社会言語コミュニケーションのルールが存在しているため観察しにくい点ではあるが、異文化をもつ人たちとの接触でのコミュニケーションになると、お互いに相手の呼び方、呼ばれ方で戸惑いや違和感をもつ場合がある。日本と韓国の社会における上下の人間関係が呼称選択において大きな意味を持っていること、また、親族間の対話が他人の人間関係にも拡張されるということは、西欧語にはあまり見られない両言語の特徴といえる。しかし、この原則はあくまでも原則だけであって、実際使われている場面においては両国の習慣や社会通念などの違いにより、相違点がみられる。呼称選択においては、性・年齢・親疎関係などの対人的要因や、フォーマル・インフォーマルなどといった場面的要因などの様々な要素が関与する。その中でも、特に韓国語の場合、年齢の上下関係が日本語よりはるかに大きな選択要因となる。

ところで、両言語の共通の枠組みによる呼称表現に焦点をあてた対照社会言語研究は、まだ、なされていないため、両言語の呼称表現の用法を知る上に直接役立つデータが少ない。そこで、筆者は同大学院の修士論文のなかで、鈴木(1973)の提案した自称詞と対称詞という概念を取り入れ、

日・韓両言語の自称詞と対称詞における使い分けの規則性を研究・分析した。しかし、これは筆者の内省による概略的考察に過ぎず、今研究では、2000年2月に日本人話者と韓国人話者を対象に行ったアンケート調査<sup>1)</sup>の結果を論拠として、両言語における対称詞の使い分けの現状と特徴について叙述していきたい。

## 2. 日・韓両言語における呼称

両言語においては、呼びかけとして、実名、愛称、地位名、役職名、親族名称、職業名などが使われている。また、時には人称代名詞が用いられることもあるが、英語をはじめとするヨーロッパ諸言語と比べると、その使用頻度は低い。

英語の場合、話し手が自分を指すことばは例外を除いて常に、「I」である。話している相手を指すことばは、「You」である。これは話し手と聞き手の関わりに関係なく一定している。しかし、日・韓両言語における人称代名詞は種類が豊富で、また相手と場合によって使い分けているため、固定できない。

「日・韓両言語社会でどのような状況の下に、自分(I)及び相手(You)をどのようなことばで表現するか」という問題を、統一的に把握するためには、自称詞と対称詞という視点から考察する必要がある。鈴木(1973)は「自称詞とは、話し手が自分自身に言及することばのすべてを総括する概念であり、対称詞とは話の相手に言及することばの総称である」と記している。

また、自称詞、対称詞の使い方には、上下の分極が見られること、社会的なコンテキストのもの

でも親族間の対話のパターンが拡張されると説いている。同氏の観点を、韓国語に当てはめた場合も同様のことが言える。すなわち、目上と目下という概念が自称詞と対称詞の使われ方の原則に大きく影響している。これは日・韓両社会における上下の人間関係が呼称選択において大きな意味を持つ。また、親族間の対話のパターンが他人の人間関係にも拡張されることは、西欧語にはみられない特徴ともいえよう。しかし、この規則はあくまでも原則であって、日・韓両言語が実際、使われる場面においては相違・例外も見られる。

日・韓両言語における対人関係の状況は親族内と親族外の二種類に大別することができる。しかし、一般には親族内の原則が親族外にも拡張されているので、まず親族内を取り上げ、次に親族外を取り上げることにする。なお、本稿で採用した韓国語におけるローマ字転記法は韓国国立国語研究院(2000, 7改訂版)による。

### 3. 親族間の呼称

両言語の親族間では親族名称がよく使われている。親族名称は目上と目下によってその使い方が異なる。目上の者、すなわち、祖父母・父母・おじ・おば・兄・姉などに対してはほとんど相手を親族名称で呼びかける。親族名称を用いる場合、日本語では、「-さま、-さん、-ちゃん」を、韓国語では「-nim」などをつけて待遇関係を表す。

しかし、目下の親族に対しては、二人称代名詞や固有名で呼びかけるのが一般的である。

一方、韓国語の場合、目下の姻族の親族すなわち、配偶者の弟や妹または年上の甥と姪などには例外的に名前ではなく、親族名称を用いるケースがある。日本語では、その人の「名前+さん・くん・ちゃん」を付ける。

前述の鈴木(1973)は、日本語の対称詞の使い方には、目上と目下の分極がみられ、次のような使用規則性が見られると説明している。

図2は図1に対する韓国語における親族体系である。

【図1. 2 : 日本と韓国における親族体系】

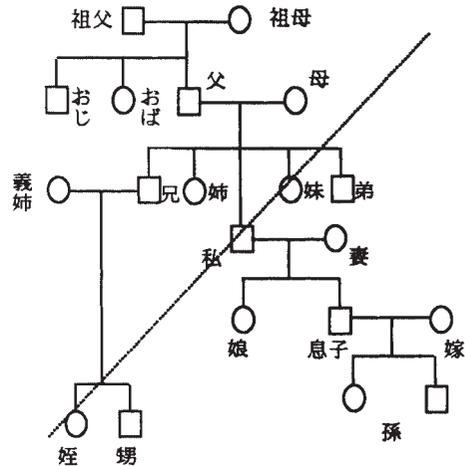


図 1

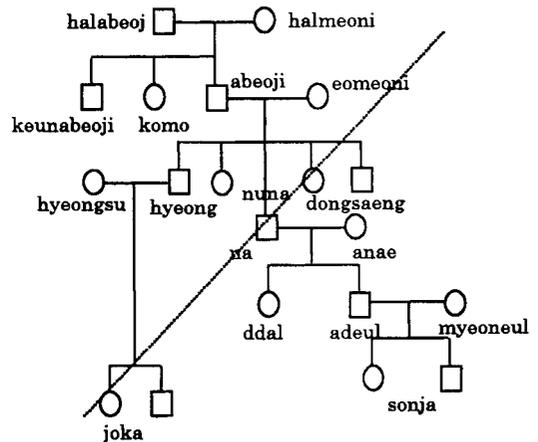


図 2

- (i) (自己)は分割線の上に位する親族を、人称代名詞を使って呼びかけたり、直接言及することはできない。
- (ii) 分割線より上の人を、普通は親族名詞で呼ぶ。しかし分割線より下の者を親族名称で呼びかけることはできない。
- (iii) 分割線より上の者を、名前だけで直接呼ぶことはできない。分割線の下に位する者は、名前で呼ぶことができる。

【表1 兄弟姉妹に対する呼称】

相手	語形	比率 (%)		
		男	女	
兄 親族名称類	あにき	36.4	5.7	
	おにいちゃん	18.2	31.4	
	にいちゃん	13.6	14.3	
	おにいさん	4.5	11.4	
	にいさん	4.5	5.7	
	にいやん	4.5	0	
	あに	0	2.9	
	あにさん	0	2.9	
	にい	0	2.9	
	名前+おにいちゃん	0	2.9	
	名前+あに	0	2.9	
	名前類	名前	4.5	2.9
		名前+さん	4.5	0
		名前+ちゃん	4.5	2.9
ニックネーム+ちゃん		0	5.7	
代名詞類		じぶん	4.5	0
	あんた	0	2.9	
	おまえ	0	2.9	
姉 親族名称	ねえさん	20	9.7	
	おねえちゃん	15	29	
	ねえちゃん	15	16.1	
	あねき	15	0	
	おねえさん	10	16.1	
	おねえ	5	0	
	ねえ	5	0	
	あねうえ	0	3.2	
	名前+ねえちゃん	0	3.2	
	名前類	名前	5	3.2
		名前+さん	5	6.5
		名前+ちゃん	0	3.2
		ニックネーム	5	6.5
		ニックネーム+ちゃん	0	3.2
弟 親族名称類		おとうとくん	0	2.4
	おとうと	0	2.4	
	名前類	名前	56.3	43.9
		ニックネーム+ちゃん	12.5	9.8
		名前+さん	6.3	0
		名前+ちゃん	6.3	7.3
		名前+くん	6.3	7.3
		ニックネーム	6.3	7.3
		ニックネーム+くん	0	9.8
		ニックネーム+ちん	0	2.4
		名前+やん	0	2.4
		その他	おい	6.3
	おまえ		0	2.4
	妹 名前類	名前	61.1	50
名前+ちゃん		11.1	14.7	
ニックネーム		11.1	8.8	
ニックネーム+ちゃん		5.6	11.8	
名前+さん		5.6	5.9	
ニックネーム+りん		0	2.9	
その他		あのあほ	5.6	0
		おたく	0	2.9
		ねえー	0	2.9

表1 日本

注:

- 表内の数字は男女別の%である。  
統計のまるめの誤差のため100%にならない場合もある。
- 回答は複数回答
- 本稿でのニックネームとは名前または苗字の一部だけを呼んで呼びかけることを意味する。

【表2 兄弟姉妹に対する呼称】

相手	語形	比率 (%)		
		男	女	
兄 親族名称類	hyeong	58.5	0	
	hyeongnim	24.6	0	
	順番+hyeong	3.1	0	
	hyeongnim+a	1.5	0	
	seong+a	1.5	0	
	si+ya	1.5	0	
	hi+ya	1.5	0	
	名前+hyeong	1.5	0	
	順番+seong	1.5	0	
	oppa	0	72.2	
	順番+oppa	0	9.3	
	名前+oppa	0	7.4	
	orabeonim	0	5.6	
	orabeoni	0	1.9	
orabang	0	1.9		
oppa+ya	0	1.9		
名前類	名前+a/ya	3.1	0	
	その他	ya	1.5	0
姉 親族名称類	nuna	60.7	0	
	nunim	16.4	0	
	nuna+ya	8.2	0	
	nu+ya	4.9	0	
	nubi+ya	1.6	0	
	名前+nuna	1.6	0	
	地名+nuna	1.6	0	
	eonni	0	82.7	
	順番+eonni	0	7.7	
	名前+eonni	0	5.8	
	eonni+ya	0	3.8	
	視点移動類	子供の名前+eomma	1.6	0
		その他	ya	1.6
		あだな	1.6	0
弟 親族名称類	dongsaeng	3.6	3.5	
	au	1.8	0	
	名前+dongsaeng	1.8	0	
	名前類	名前+a/ya	43.6	54.4
		名前	23.6	8.8
		ニックネーム	3.6	3.5
		名前+i	1.8	1.8
		姓名	1.8	7
		順番類	順番+ya	1.8
	順番	0	1.8	
	視点移動類	子供の名前+appa	7.3	7
		adeul	0	1.8
		samchon+a	0	1.8
	その他	ya	9.1	3.5
あだな		0	3.5	
妹 親族名称類	dongsaeng	4.4	0	
	nui	2.2	0	
	名前+dongsaeng	2.2	2	
	au+ya	0	6	
	dongsaeng+a	0	2	
	名前類	名前+a/ya	46.7	54
		名前	24.4	12
		ニックネーム	2.2	6
		名前+i	0	4
	順番類	順番+ya	0	4
		視点移動類	子供の名前+eomma	6.7
	子供の名前+emiya		2.2	0
	子供の名前+a/ya		2.2	0
	その他	ya	2.2	2
あだな		4.4	2	

表2 韓国

【表3 義理の兄弟姉妹に対する呼称】

相手	語形	比率 (%)		
		男	女	
義理の兄	親族名称類	おにいさん	50	76.5
		にいさん	7.1	5.9
	名前類	名前+さん	14.3	11.8
		苗字+さん	14.3	0
		ニックネーム	7.1	0
	名前	7.1	0	
	名前+くん	0	5.9	
義理の姉	親族名称類	おねえさん	100	50
		おねえちゃん	0	25
	名前類	名前+さん	0	25
義理の弟	名前類	名前+さん	33.3	23.1
		名前+くん	33.3	46.2
		名前+ちゃん	22.2	7.7
		名前	11.1	7.7
		ニックネーム+ちゃん	0	15.4
義理の妹	名前類	名前+さん	46.7	46.2
		ニックネーム+ちゃん	26.7	7.7
		名前	13.3	0
		ニックネーム	6.7	0
	名前+ちゃん	0	46.2	
その他	あんなあ	6.7	0	

表3 日本

すべて目上と目下という考え方で分けられた分割線（上図点線）と合致し、親族構成員間の対話における対称詞についての原則であるといえる。

勿論、これらは同氏も指摘しているように、あくまでも原則であって、実際の使い方には個人差がみられる。

この対称詞の原則は、韓国語に当てはめた場合、ほとんど一致するが、相違する点もみられる。この異なる点については便宜上、世代別に分けて比較することにする。

### 3. 1 自分と同じ世代の親族

日本語と韓国語の兄弟、姉妹の間ではどのような呼称形式が用いられているかは〈表1〉と〈表2〉の通りである。

前述の鈴木（1973）と同様に、両言語は年下の弟・妹に名前で、年上の兄・姉には親族名称で呼びかけるのがもっとも多い。また、親族名称にも様々な表現が使われている。

韓国語の場合は自分が男であるか女であるかによって親族名称が変わるので、まず、自分が男の場合からみてみよう。

「兄」は「hyeong, hyeongnim」と「姉」は「nuna, nunim」と呼びかけるのが一番多い。また、

【表4 義理の兄弟姉妹に対する呼称】

相手	語形	比率 (%)			
		男	女		
配偶者の兄	親族名称類	hyeongnim	45.9	0	
		cheonam	40.5	0	
		hyeong	2.7	0	
		順番+cheohyong	2.7	0	
		順番+cheonam	2.7	0	
		ajubeonim	0	60	
		siajubeonim	0	20	
		sisuknim	0	20	
		名前類	名前+ssi	1.5	0
		視点移動類	子供の名前+appa	2.7	0
配偶者の姉	親族名称類	cheohyong	88	0	
		cohyeongnim	4	0	
		hyeongnim	0	42.9	
		sinu	0	9.5	
		sinunim	0	4.8	
		seongnim	0	4.8	
視点移動類	eonni	4	9.5		
	oesukmonim	4	0		
	komo	0	14.3		
	nunim	0	9.5		
	komonim	0	4.8		
	配偶者の弟	親族名称類	cheonam	60	0
順番+cheonam			2.5	0	
dolyeonim			0	43.8	
samchon			0	21.9	
sidongsaeng			0	15.6	
seobangnim			0	9.4	
名前類			名前+a/ya	15	0
名前			12.5	0	
名前+i			2.5	3.1	
視点移動類			子供の名前+appa	7.5	3.1
	子供の名前+abeoji	0	0		
配偶者の妹	親族名称類	cheoje	77.8	0	
		名前+cheoje	2.8	0	
		akassi	0	52	
		sinui	0	12	
		agissi	0	4	
		視点移動類	子供の名前+eomma	2.8	0
名前類	imo	2.8	0		
	komo	0	32		
	名前	8.3	0		
	名前+a/ya	5.6	0		

表4 韓国

「兄」は、「順番+hyeong」と呼び分けることができる。即ち「長男」は「keunhyeong（一番目の兄）」、「次男」は「jakeunhyeong（下の兄）」、または「dulzzaehyeong（二番目の兄）」、「第三兄」は「seazzaehyeong（三番目の兄）」のように区別する。「姉」に対する「nuna」についても順番を表すことばに「nuna」と呼びかけることができると思うが今回の調査では使用例は見られなかった。おそらく、使われる頻度があまり高くないからだと思われる。一方、このような順番を用いた呼称は日本語では見られない。また、自分が女である場合、

【表5 祖父母に対する呼称】

相手	語形	比率 (%)	
		男	女
祖親族名称類 父	おじい	52.6	14.9
	おじいちゃん	36.8	72.3
	おじいさん	5.3	2.1
	おじさん	5.3	0
	おじいちゃま	0	2.1
	じいちゃん	0	2.1
	じいさん	0	2.1
	おじちゃん	0	2.1
名前類	名前+さん	0	2.1
祖親族名称類 母	ばあちゃん	46.4	16.4
	おばあちゃん	42.9	67.2
	おばあさん	3.6	3.3
	ばあさん	3.6	1.6
	おばあちゃま	0	3.3
	大ばば	0	1.6
	名前+おばあ	0	1.6
	名前類	名前+さん	0
その他	ねえ	3.6	0

表5 日本

「兄」は「oppa・olabeoni」, 「姉」は「eonni」と呼びかけるのが一般的である。この場合も「兄・姉」は, 「順番+oppa・eonni」と呼び分けることができる。

日本語でも, 「兄」は「お兄さん・兄さん・あにき・名前+兄さん」などで, 「姉」は「お姉さん, ねえさん・姉ちゃん・あねき・名前+ねえさん」などで呼びかけるが, 「弟」や「妹」は名前(ただし, 「さん・ちゃん」などをつけることができる。)で呼びかけるのが一般的である。しかし, 韓国語では日本語の「さん・ちゃん」に相当するものはない。

ところで, 「弟」「妹」は実名で呼びかけるのが一般的で, 親族名称を用いるのは極めて少ない。人によっては, 「auya」または「dongsaeng」, 「弟」といった親族名称で呼びかけることもある(特に, 韓国語の場合は年齢が高いほど使う頻度が高い)。さらに, 彼らに子供がいれば, 相手の子供へ視点を移動して「子供の名前+appa・eomma」<sup>2)</sup>, または相手の子供の名前に「a/ya」などの呼格助詞をつけて呼びかけることもある。なお, 場合によっては自分の子供へ視点を移動して「samcon(おじちゃん)」と呼びかけることもある。このように目下の弟や妹に対して親族名称, またはその人の子供の名前を用いるのは彼らがもう成人して名前では呼びにくくなったからであると考えられる。これに対し, 日本語ではこのよう

【表6 祖父母に対する呼称】

相手	語形	比率 (%)	
		男	女
祖親族名称類 父	halabeoji/oe halabeoji	79.6	91.5
	halabeonim	7.4	
	halbae	7.4	
	jobunim	3.7	6.4
	halbeoji	1.9	
	eorusin	0	2.1
祖親族名称類 母	halmeoni/oe halmeoni	77.4	89.5
	halmeonim	9.7	1.8
	halmae	8.1	3.5
	jomonim	3.2	1.8
	halmeom	1.6	1.8
	halmeoi	0	1.8

表6 韓国

な語形はみられず, その人の名前が用いられる傾向が多い。

ところで, 年下は名前を呼び, 年上は名前を呼ばないという原則は, 兄弟姉妹だけではなく「いとこ」にも適用することができる。

いとこのうち年下のものは名で呼び, いとこのうち年上のは, 「名+hyeong・nuna(男性)」, または, 「名+eonni・oppa(女性)」で呼ぶ。さらに, この原則は, 兄弟の子(「甥」, 「姪」)にも自分の「子」または「孫」にも及ぶ。彼らはほとんど年下なので, 名前を呼んでもかまわない。この原則については日本語においても同じことがいえよう。

一方, 義理の兄弟については, 韓国語の場合, 義理の兄弟, 姉妹に対する親族名称の体系は実の兄弟とは異なる。しかし, 日本語の場合はほぼ同じである。表でまとめてみると次のようである。

ところで, 「兄嫁」が自分より年下のことがある。その場合, 韓国語では年齢が自分より年下であっても序列が上位であれば, 決まった呼称を用いるべきであるのが通常である。しかし, 実際の場面に置かれると, 一つで割り切れないのが現状のようである。相手が子供を持っていると, その子供の名前に「-appa(パパ)・-eomma(ママ)」とつけて呼ぶか, あるいは自分の子供に視点を移動して, 相手を呼びかけたりする。

たとえば, 兄嫁が自分より年下である場合, 本来は「eonni・hyeongnim」と呼ぶべきことを兄嫁の子供の名前に「-eomma(ママ)」をつけて呼ぶことである。

なお, 子供が生まれると, 夫の姉に対して, 本

【表7 父母に対する呼称】

相手	語形	比率 (%)		
		男	女	
父 親族名称類	おとうさん	38.1	57.3	
	とうさん	16.7	9.8	
	おやじ	14.3	0	
	おとうちゃん	7.1	7.3	
	おとん	4.8	2.4	
	おとう	2.4	2.4	
	とうちゃん	2.4	0	
	おやじさん	2.4	0	
	おっさん	2.4	0	
	ていやん	2.4	0	
	パパ	0	6.1	
	ちち	0	2.4	
	パピー	0	1.2	
	視点移動類	おじいちゃん	4.8	2.4
		じい	0	2.4
		おじいさん	0	1.2
		じいちゃん	0	1.2
じいさま		0	1.2	
じじごん		0	1.2	
名前類	ニックネーム+ちゃん	0	1.2	
その他	ねえ	2.4	0	
母 親族名称類	おかあさん	38.8	56.4	
	かあさん	14.3	6.4	
	おふくろ	12.2	0	
	おかん	10.2	1.1	
	おかあちゃん	6.1	5.3	
	かあちゃん	4.1	2.1	
	ママ	2	7.4	
	はは	0	3.2	
	おかあ	0	1.1	
	おっかあ	0	1.1	
	かあ	0	1.1	
	マミー	0	1.1	
	母上様	0	1.1	
	視点移動類	おばあちゃん	4.1	3.2
		おばあさん	2	1.1
		ばば	0	2.1
		ばあさん	0	1.1
		ばあちゃん	0	1.1
		ばあさま	0	1.1
	名前類	名前+さん	0	1.1
		名前+ちゃん	0	1.1
その他	あんた	4.1	1.1	
	ねえ	2	0	

表7 日本

来「hyeongnim」と呼び、妹には「agassi」を呼ぶべきところを代わりに「komo」という子供が使う呼称で呼ぶのである。このような呼称の現れは、年齢と序列が逆であり、本来の呼称で呼びにくいということが理由であると考えられる。

一方、日本語でも、実際の年齢差よりも親族内の序列差により上下関係を呼称選択の条件として重視している。たとえば、長男である兄の妻が自分より年下であっても、「お姉さん」と呼んでいる。しかし、年齢と序列の上下関係を問わず、

【表8 父母に対する呼称】

相手	語形	比率 (%)		
		男	女	
父 親族名称類	abeoji	66.7	35	
	abeonim	16.7	7.5	
	appa	10.7	53.8	
	abuji	4.8	0	
	abeoji + yo	1.2	0	
	視点移動類	子供の名前 + halabeoji	0	1.3
	名前類	姓名 + ssi	0	1.3
その他	あだな	0	1.3	
母 親族名称類	eomma	54.2	73.9	
	eomeoni	28.1	15.9	
	eomeonim	10.4	4.5	
	eomui	2.1	0	
	eomeongi	2.1	0	
	eomuni	1	0	
	eomuni	1	0	
	eomni	0	1	
	視点移動類	子供の名前 + halmeoni	0	1
		halmamama	0	1
	その他	nochinne	1	0
聖霊名		0	1	
あだな		0	1	

表8 韓国

「-さん」と呼ぶことができるため、韓国語で見られる呼称の選択の困難は少ない。

### 3. 2 自分と異なる世代の親族

自分より年下の親族は名前で呼びかけ、年上の親族は名前で呼びかけることができないため、自分より下の世代の親族は当然名前で呼びかける。そして、自分より上の世代の親族は名前以外の名称を使用している。

まず、韓国語の場合、「父の父（祖父）」は「halabeoji」、「父の母（祖母）」は「halmeoni」という。「母の父」、「母の母」についても同じであるが、「oe（外）-」を前につけて呼ぶのが一般的である。一方、日本語では父方か母方かを区別しない<sup>④</sup>。

韓国語では「父」は「appa・abeoji・abeonim」、「母」は「eomma・eomeoni・eomeonim」と呼ぶ。本来、子供語である「appa・eomma」は20代～30代の比較的若い世代がよく使っている。

父母の兄弟に対しては、日本語では父との年齢の上下に関係なく、男性なら「おじ」、女性なら「おば」である。韓国の場合は男性なら父との年齢の上下に応じて「keunabeoji（父の兄）、jakeunabeoji（父の既婚の弟）、samcon（父の未婚の弟）」、女性なら父との年齢の上下に関係なく「komo」

【表9 おじ・おばに対する呼称】

相手	語形	比率 (%)		
		男	女	
おじ	親族名称類			
	おじさん	37	30.4	
	おじちゃん	16.7	43	
	おっちゃん	7.4	6.3	
	おいちゃん	5.6	1.3	
	地名+おじさん	3.7	1.3	
	おじさま	1.9	0	
	名前+おじさん	1.9	0	
	おっさん	1.9	1.3	
	おいさん	1.9	0	
	苗字+おじちゃん	1.9	1.3	
	名前+おっちゃん	1.9	0	
	相手の子供の名前+おっちゃん	1.9	0	
	おじさま	0	1.3	
	おんちゃん	0	1.3	
	名前+おじちゃん	0	3.8	
	地名+おっさん	0	1.3	
	ニックネーム+おじちゃん	0	1.3	
	名前類			
	ニックネーム+ちゃん	3.7	0	
名前+さん	1.9	2.5		
苗字+さん	1.9	0		
その他	名前+にいちゃん	5.6	1.3	
	にいちゃん	3.7	1.3	
	名前+おにいちゃん	0	1.3	
おば	親族名称類			
	おばさん	44	22.7	
	おばちゃん	26	48.9	
	名前+おばちゃん	4	4.5	
	地名+おばさん	4	1.1	
	名前+おばさん	2	1.1	
	子供の名前+おばちゃん	2	1.1	
	おばさま	2	0	
	おばしゃん	2	0	
	おばん	2	0	
	おばさま	0	1.1	
	名前+おばちゃん	0	1.1	
	地名+おばはん	0	1.1	
	苗字+おばちゃん	0	1.1	
	本家のおばさん	0	1.1	
	名前類			
	名前+さん	4	5.7	
	ニックネーム+ちゃん	2	3.4	
	苗字+さん	2	0	
	その他	名前+ねえちゃん	2	2.3
ねえちゃん		2	2.3	
名前+おねえちゃん		0	1.1	

表9 日本

という。「母」の兄弟の場合、男なら「oesamchon」、女性なら「imo」と呼ぶ。「おじ・おば」が父方か母方かによって呼びかけ語が変わり、かつ男性の兄弟の場合は年齢の上下に応じて、またその呼び方が変わるのである。

しかし、「おじ」、「おば」が自分より年下の場合がある。韓国では長幼の序は普遍的な理念と見なしているが、一方で親族の間では、父系血縁による系譜上の世代序列が原則として長幼の上より優先される<sup>(4)</sup>ため、決まった呼称を用いるのが普通である。

【表10 おじ・おばに対する呼称】

相手	語形	比率 (%)	
		男	女
おじ	親族名称類		
	順番+abeoji	59.7	51.2
	samchon	22.1	26.8
	順番+abeonim	6.9	4.9
	順番+appa	2.8	15.9
	sukbunim/baekbunim	1.4	0
	dangsukeoleun	1.4	0
	名前+samchon	1.4	0
	順番+abeojiyo	1.4	0
	視点移動類		
	子供の名前+abeonim	1.4	0
	子供の名前+abeoji	1.4	0
	子供の名前+appa	0	1.2
	親族名称類		
	oesamchon	70.6	57.3
	samchon	17.6	29.3
	順番+oesamchon	4.4	2.7
	oesukbunim	1.5	0
	oesuk	1.5	1.3
	順番+samchon	1.5	2.7
名前+samchon	1.5	0	
地名+samchon	0	2.7	
aje	0	2.7	
oeaje	0	1.3	
視点移動類			
子供の名前+appa	1.5	0	
おば	親族名称類		
	komo	59.7	82.2
	komonim	19.4	5.5
	順番+komo	9	9.6
	地名+komo	3	1.4
	komo+yo	3	0
	順番+eomeoni	3	0
	順番+komonim	1.5	0
	komo+ya	1.5	0
	順番+eomma	0	1.4
親族名称類			
imo	75	89.5	
imonim	9.7	6.6	
順番+imo	8.3	3.9	
imi	2.8	0	
地名+imo	2.8	0	
名前+imo	1.4	0	

表10 韓国

「おい」、「めい」が自分より年上の場合、韓国では序列が低くても年が上の場合は名前ではなく、決まった呼称を用いるのが一般的である。

設問調査でも、自分より年上の姪や甥に対して「jokanim (姪さま, 甥さま)」「joka (甥, 姪)」と呼ぶのが一般的であった。しかし、韓国語における世代の序列の規準は若い世代では意識されず、その使い方にユレが見られる。甥、姪に対して「名前+hyeong・eonni」と呼ぶのがそれである。韓国社会におけるこのようなユレは伝統的上下関係がだんだん薄れつつあることに深い関係がある<sup>(5)</sup>。一方、日本語では「名+さん」が上位に上がっている。また、韓国語で見られる「名前+お兄さん・お姉さん」といった形式は日本語でも見られるが、これは年齢階梯語<sup>(6)</sup>としての傾向が強い

【表11 甥・姪に対する呼称】

相手	語形	比率 (%)			
		男	女		
甥	年上・甥	名前類	名前	33.3	0
		名前+さん	22.2	50	
		名前+くん	22.2	0	
		名前+ちゃん	11.1	50	
		その他	名前+にいちゃん	11.1	0
	年下・甥	名前類	名前	41.2	20.6
		名前+くん	23.5	55.9	
		名前+ちゃん	11.8	14.7	
		ニックネーム+ちゃん	11.8	5.9	
		ニックネーム+くん	5.9	0	
その他	名前+さん	5.9	0		
その他	ちび	0	2.9		
姪	年上・姪	名前類	名前	33.3	0
		名前+さん	33.3	33.3	
		名前+ちゃん	16.7	33.3	
		その他	名前+ねえさん	16.7	0
		名前+おばちゃん	0	33.3	
	年下・姪	名前類	名前	47.1	16.7
		名前+ちゃん	29.4	55.6	
		ニックネーム+ちゃん	11.8	13.9	
		名前+さん	11.8	8.3	
		ニックネーム	0	2.8	
その他	ちび	0	2.8		

表11 日本

と考えられる。

以上で述べたように、両言語は年齢の上下が呼称用法の使い分けの規準になっている。しかし、韓国語はその世代の違いも要因の一つとなっている。性別、さらに父方か母方なども作用している。同様に日本語でも年齢と序列の上下関係の条件を重視している。しかし、それと関係なく「-さん」と呼ぶことができるため、韓国語で見られる呼称選択の困難は少ないように考えられる。

### 3. 3 夫、妻

日本と韓国の間で、どのような呼称形式が用いられているかは〈表13〉〈表14〉のとおりである。夫婦の間では、年齢差による上下関係が成立しておらず、その使い分けには個人差が見られる。しかし、両言語では子供が生まれてくると子供の立場に視点を移動して呼びかける傾向が強い。

### 4. 親族外の呼称

両言語において、親族内の対話に見られる自称詞と対称詞の使い方の規則はほとんどそのまま、親族外の社会的状況にも拡張的に当てはめることができる。すなわち、目上の人に対しては親族名

【表12 甥・姪に対する呼称】

相手	語形	比率 (%)				
		男	女			
甥	年上・甥	親族名称類	jokanim	44	42.9	
		名前+jokanim	20	0		
		joka	8	14.3		
		名前類	名前	8	7.1	
		名前+a/ya	4	7.1		
	その他	子供の名前+appa	0	7.1		
		名前+hyeong	8	0		
		joki	4	0		
		ya	4	0		
		名前+oppa	0	14.3		
oppa	0	7.1				
年下・甥	親族名称類	joka	7.1	1.8		
	名前+joka	3.6	0			
	名前類	名前	44.6	18.2		
	名前+a/ya	35.7	72.7			
	ニックネーム	0	1.8			
	視点移動類	子供の名前+appa	3.6	3.6		
	その他	ya	3.6	1.8		
		tjasik	3.6	0		
	姪	年上・姪	親族名称類	名前+jokanim	28.6	0
			jokanim	14.3	37.5	
順番+joka			7.1	0		
joka			0	12.5		
名前類			名前	14.3	12.5	
視点移動類		子供の名前+eomma	14.3	12.5		
その他		名前+nuna	7.1	0		
		nuna	7.1	0		
		jeoki	7.1	0		
		eonni	0	12.5		
	名前+eonni	0	12.5			
年下・姪	親族名称類	joka	8.6	0		
	jokaddal	2.9	0			
	名前類	名前	51.4	23.8		
	名前+a/ya	25.7	76.2			
	視点移動類	子供の名前+eomma	2.9	0		
	その他	aegi	5.7	0		
		ya	2.9	0		

表12 韓国

称などを、目下の人に対しては名前、人称代名詞などが多く用いられる点で共通している。目上の人に対しては地位名、役職名などを用いることもできる。

本稿では、親族外の対象を名前の既知の者と未知の者とにわけて両言語を比較してみる。

#### 4. 1 名前既知の者に対して

このような間柄に置かれているのは、先生、先輩、同級生、後輩、上司、同僚、部下、近所の人、親族の友達、友達の親族などが浮かび上がる。このような関係においては、日本語と韓国語の呼称選択の違いが様々にあらわれる。

まず、親族名称の用法に関しては、両言語とも

【表13 夫・妻に対する呼称】

相手	語形	%	
夫	視点移動類	おとうさん	32.4
		パパ	10.8
		おとうちゃん	5.4
		とうさん	2.7
		とーと	2.7
	名前類	名前+くん	8.1
		名前+さん	5.4
		ニックネーム+くん	5.4
		ニックネーム+ちゃん	5.4
		名前+ちゃん	2.7
		名前	2.7
	その他	あなた	8.1
		名前+にいちゃん	2.7
あんた		2.7	
ダーリン		2.7	
妻	視点移動類	おかあさん	14.3
		ママ	5.7
		かあさん	2.9
	名前類	名前	45.7
		ニックネーム+ちゃん	8.6
		名前+ちゃん	5.7
		ニックネーム	2.9
	その他	おい	5.7
		あだな	5.7
		おまえ	2.9

表13 日本

親族名称の虚構的用法のが見られる点が共通しているものの、日本語では仲間や知人においてごくわずかな親族名称だけが用いられるのに対し、韓国語では、かなり広範な親族名称が使用される。韓国では親しいか親しくなりたい、または同一の集団の成員となる相手に対し、親族名称で相手を呼ぶ習慣がある。すなわち、先輩、親しい上司、年上の職場の仲間、父母・兄姉の友達の父母・兄姉、近所の年上の仲間などと話す際、「hyeong・oppa(兄)、nuna・eonni(姉)」または、「名前・愛称+親族名称」などの組み合わせでそれぞれの相手を呼ぶケースが多い。年下の相手に対しては名前で呼ぶのが一般的である。韓国語において最も広範で使われる虚構的親族名称は「ajeossi(おじさん)・ajumma, ajumeoni(おばさん)」である。「ajeossi・ajumma, ajumeoni」は原則では父母世代の対象(父母の兄弟姉妹)に対する対称詞ではあるが、その対象の年齢層が20代から50、60代に至るまで、日常生活で接するほとんどの成人男女に対して用いることができる。また、親族間でも年下のおじ、おばが存在するせいか、虚構的な場合でも実際の年齢は無視され、年下の相手にも「ajeossi・ajumma, ajumeoni」などの対称詞を用い

【表14 夫・妻に対する呼称】

相手	語形	%	
夫	視点移動類	子供の名前+appa	20
		子供の名前+abeoji	1.3
		aebi	1.3
	名前類	名前+ssi	11.3
		名前	2.5
		ニックネーム	1.3
	その他	yobo	22.5
		dangshin	7.5
		jaki	7.5
		oppa	5
		jaki+ya	3.8
		yeobo+ya	3.8
		seonbai	2.5
ya		2.5	
seobangnim		1.3	
nampeon		1.3	
jeogi+yo		1.3	
姓+sajangnim		1.3	
あだな		1.3	
heoni/daling	1.3		
妻	視点移動類	子供の名前+eomma	17.6
		子供の名前+a/ya	6.8
		子供の名前+i	2.7
	名前類	名前+a/ya	16.2
		名前	6.8
		名前+ssi	5.4
	その他	yeobo	25.7
		jaki	8.1
		dangshin	4.1
		jaki+ya	2.7
		gaksi	1.4
		saeksi	1.4
naeja		1.4	

表14 韓国

ることができる。現在、韓国語の「ajeossi・ajumma, ajumeoni」はこのような年齢基準の無視と濫用によって、相手に対する適当な呼称語がない場合に使われる品位のない呼称語として使われる傾向が多い<sup>6)</sup>。そのため、親しい間柄より見知らない他人に多用されている。

「兄弟姉妹語」のなかでも一番よく使われるのは「hyeong・eonni」である。しかし、男性と女性の接する機会が多くなった今日、お互いを呼び合う回数が頻繁になり、最近では「nuna・oppa」をもよく用いられる。

一方、このような年上の相手に対して、日本語では、「苗字+さん」や「肩書き」などで相手のことを呼ぶのが一般的である。また、年下の者への対称詞は「名+さん・くん・ちゃん」が多い。「お姉ちゃん」、「お兄ちゃん」など親族名称を用いる場合は相手が子供の場合である<sup>9)</sup>。

【表15. 16 名前既知のものに対する呼称】

相手	語形	比率 (%)	
		男	女
年上の男性	名前 (の一部) 類	91.2	86.3
	地位・役職名類	3.6	3.4
	親族名称類	3.6	3.4
	職業・役割名類	0	4.5
	その他	1.8	2.2
年上の女性	名前 (の一部) 類	87	80.2
	親族名称類	6.6	4.5
	職業・役割名類	2.2	12.8
	その他	4.3	2.4
同年輩の男性	名前 (の一部) 類	90	99.1
	代名詞類	5.7	0
	職業・役割名類	1.4	0
	その他	2.9	1
同年輩の女性	名前 (の一部) 類	94.4	96.9
	職業・役割名類	1.9	0
	親族名称類	0	0.8
	その他	3.8	2.4
年下の男性	名前 (の一部) 類	91.8	98.9
	職業・役割名類	1.6	0
	代名詞類	1.6	0
	その他	4.9	1.2
年下の女性	名前 (の一部) 類	98.1	98.9
	代名詞類	1.9	0
	その他	0	1.1

表15 日本

注：上記の分類については金水敏（1989）を参考にした。

- 「名前 (の一部)」類：  
日本語の「苗字 (の一部)・名前 (の一部) + φ・さん・ちゃん・くん」, 韓国語の「名前 (の一部)・姓名 + φ・ssi・nim・yang・kun」に該当するもの
- 「地位・役職名」類：  
「部長 (bujang)・社長 (sajang), 苗字 + 部長, 姓名 + goajang (課長) + φ・nim」などに該当するもの
- 「職業・役割名」類：  
「学生 (haksaeng)・先生 (seonsaeng + φ・nim), 先輩 (seonbai + φ・nim)」などに該当するもの

以上のことから韓国社会は日本社会より親族名称の虚構的用法が広範に発達しているといえよう。韓国社会における親族名称の多用の背景には、韓国社会特有の、年齢差の重視、つまり年上の人物への配慮及び「擬制親族意識」<sup>(40)</sup>という二つの大きな原因が関与していると考えられる。これに対し、日本語では自分との間に擬制親族関係を想定せず、むしろ親族名称を相手が属する世代語、すなわち年齢階梯語として用いる傾向が強い。

ところで、名前を用いる場合、韓国語は「姓名 + φ・ssi・nim」, 「名前 (の一部) + φ・a/ya・ssi・nim」などで、日本語は「苗字 (の一部) + φ・さん・ちゃん・くん」, 「名前 (の一部) + φ・さん・ちゃん・くん」などで呼びかける。これらの呼称は、両言語とも仲間や知人の関

相手	語形	比率 (%)	
		男	女
年上の男性	親族名称類	71.2	32.7
	名前 (の一部) 類	11.6	32.7
	職業・役割名類	10.3	18.3
	地位・役職名類	3	5.4
	代名詞類	0	0.9
	その他	4	9.9
年上の女性	親族名称類	68.8	74.1
	名前 (の一部) 類	17.7	14.8
	職業・役割名類	3.5	1
	地位・役職名類	2.3	2
同年輩の男性	名前 (の一部) 類	66.9	72.3
	地位・役職名類	4.2	3.6
	職業・役割名類	0	1.2
	代名詞類	0	4.8
	親族名称類	1	0
同年輩の女性	名前 (の一部) 類	64.9	68.3
	地位・役職名類	6	1
	親族名称類	4.8	2.9
	代名詞類	1.5	4
	その他	22.8	24.2
年下の男性	名前 (の一部) 類	69.5	76.4
	地位・役職名類	2.1	0
	職業・役割名類	2.1	1.5
	代名詞類	2.1	1.5
	親族名称類	1.1	2.9
	その他	23.2	17.6
年下の女性	名前 (の一部) 類	83.3	84.8
	地位・役職名類	2.8	0
	職業・役割名類	1.4	1.4
	代名詞類	0	5.6
	その他	11.1	8.4

表16 韓国

係において丁寧さと心理的距離の度合い、内と外の意識によってそれぞれ使い分けられることができる。しかし、韓国語より日本語のほうが苗字、名前、愛称の使い分けがより明確である。一般的には「家」という帰属集団の名称つまり「苗字 + さん」が多用されている。

#### 4. 2 未知の者に対して

見知らない者への呼びかけをみると次のとおりである。

見知らない者に対して、両言語では相手が属する世代、例えば少年、青年、中年、老年などを示す年齢階梯語として親族名称を用いることができる。たとえば、20代の男性が50代の女性を「おば

【表17. 18 未知のものに対する呼称】

相手	語形	比率 (%)	
		男	女
年上の男性	感動詞・挨拶表現類	88.3	99
	親族名称類	7.6	1.1
	代名詞類	3.8	0
年上の女性	感動詞・挨拶表現類	90.1	95.4
	親族名称類	6	3.5
	代名詞類	4	0
	その他	0	1.2
同年輩の男性	感動詞・挨拶表現類	90	98.8
	親族名称類	6	0
	代名詞類	4	1.2
同年輩の女性	感動詞・挨拶表現類	86.7	98.8
	親族名称類	7.6	0
	代名詞類	5.7	0
	その他	0	1.2
年下の男性	感動詞・挨拶表現類	87.3	93.1
	代名詞類	10.7	4.8
	親族名称類	2.1	2.1
年下の女性	感動詞・挨拶表現類	90	94.3
	代名詞類	6	2.3
	親族名称類	0	1.2
	その他	4	2.3

表17 日本

注:

1. 感動詞, 挨拶表現類: 「あのう (jokiyo)」, 「すみません (mianhamnida)」, 「ちょっと (jamccanman)」などに該当するもの

さん」, 「ajumma (おばさん)」と呼んだりするのがその例である。

しかし, その使用頻度は韓国の方が著しい。日本の言語社会では, 親族名称よりもむしろ感動詞, 挨拶表現のほうを好む傾向がある。たとえば, 「もしもし」「あのう」「すみません」「ちょっと」などの表現である。このような話し手と聞き手との相互関係を明示しない表現の使用の理由として, 恐らく日本社会では, 知らない人に対しては親族名称のような親しみを込めた呼称を使いにくい。むしろある程度の心理的距離をおくような呼称を用いたほうが一般的な言語行動だと言える。

ちなみに韓国語では, 感動詞やあいさつ表現を呼称として使わないのが一般ではあるが, 見知らない者に対しては, 日本と同様, 「silryeohamnida (失礼します)」「cheogiyo (あのう)」という注意を喚起させることばも多用している。

## 5. おわりに

以上, 両言語における呼称用法を共通の枠組みのなかで, 社会言語学の観点から呼称のあり方と呼称用法の使い分けにおける類似点と相違点につ

相手	語形	比率 (%)	
		男	女
年上の男性	感動詞・挨拶表現類	52.4	57
	親族名称類	38.3	40
	その他	9.3	3
年上の女性	感動詞・挨拶表現類	49.9	50.2
	親族名称類	41.7	48.9
	その他	8.3	1.1
	感動詞・挨拶表現類	59.6	79.7
同年輩の男性	親族名称類	31.7	18.9
	その他	8.5	1.4
	感動詞・挨拶表現類	68.7	80
同年輩の女性	親族名称類	13.2	12.9
	その他	17.1	7.1
	感動詞・挨拶表現類	61.9	76.7
年下の男性	親族名称類	14.8	6.5
	その他	23.3	16.9
	感動詞・挨拶表現類	60.2	76.5
年下の女性	親族名称類	2.2	7.8
	その他	37.6	15.7

表18 韓国

いて比較してみた。

本研究で, 両言語における呼称のあり方と呼称用法の使い分けの現状が明らかになってきたと思われる。今後は, 両言語における呼称のヴァリエティを中心に, 両言語社会における対人関係の原理を明らかにしていきたい。また, 話者の親密と距離といった使い分けの意図を相手が実際にどう受け止めているのかも興味深いところである。呼称の使い分けを考えるにあたっては, 呼びかけられる側がどう受け止めているかを知ることは両言語の呼称選択のルールを考える上に役にたつと考えられる。

## 注

- (1) 本稿で用いたアンケート調査は, 2000年2月に日本と韓国で同時に行ったものである。調査協力者は日本人話者126人, 韓国語話者160人, 合計286人であった。年齢, 性別, 最長居住地に関する調査協力者の内訳をまとめると次のようになる。

設問は親族内と親族外にわけ, それぞれの場面ごとに相手に向かってどのように呼びかけているか, またどのように呼ばれているかをたず

調査協力者の内訳 (単位：%)

日本	性別	男性：37 女性：63
	年齢	10代：2 20代：51 30代：17 40代：12 50代：16 60代以上：3 不明：1
	最長居住地	関東：65 中国：16 九州：16 近畿：6 東海：2 四国：1 不明：1
韓国	性別	男性：50 女性：50 不明：1
	年齢	10代：1 20代：39 30代：39 40代：14 50代：6 不明：1
	最長居住地	ソウル京畿：62 江原道：16 慶尚道：12 全羅道：7 忠清道：1 済州道：1 不明：1

ねた。なお、本調査では、非調査者が使用する呼称語彙をできるだけ数多く調べることを目的としたので、答えは自由記入式とした。

- (2) 人類学の分野では、子供の名前を使って親を呼ぶ慣習のことをテクノニミー (teknonymy) と称している。このようなテクノニミーは、日本語でも見られる。
- (3) マードック (1986) の分類によると、日本語の親族の体系はエスキモ型、韓国語の親族の体系はスタン型である。エスキモ型の親族名称は直系と傍系を区別し、父系と母系を区別しない。一方、スタン型では、直系と傍系を区別し、また父系と母系を区別する。
- (4) 伊藤亜人 (1996) 『アジア読本韓国』河出書房新社
- (5) 渡辺吉鎔 (1996) は現在韓国の「呼称」が揺れているのは儒教文化の揺らぎがその原因であると述べている。
- (6) 日本語では祖父・祖母・おじ・おば・兄・姉・娘を意味する個人親族名称を、それぞれ老人の男・女、中年の男・女、若い男・女、それに若い女を意味する年齢階梯語としても使っている。渡辺友左 (1978)
- (7) 虚構的用法について、鈴木 (1973) は、「実際には血縁関係のない他人に対し、親族名称を使って呼びかけることを、人類学では親族名称の虚構的用法 (fictive use) といっている。虚構的用法の一般原則は、話し手が自分自身を原点として、相手がもし親族だったら自分の何に相当するかを考え、その関係にふさわしい親族名称を対称詞または自称詞に選ぶのである」と記述している。
- (8) 例えば、「先生、教授」などで呼ばれている人達のなかには、「ajeossi・ajumma・ajumeoni」と虚構的親族語で呼ばれる場合、不愉快に感じる人が多い。
- (9) 年下の他人、特に子供に向かって「お兄ちゃん、

おねえちゃん」と呼ぶことについて、鈴木 (1973) では、親族名称の第二の虚構的用法として説明している。一方、韓国語の場合、このような親族名称の第二の虚構的使用は一般的ではない。たびたび商店などでは自分より若い女性に対し、「eonni (お姉さん)」と呼ぶことがあるが、この場合は商術的な親近感の表現の現れであるといえる。

- (10) 韓国では、非親族関係でも親しい関係や親しくなりたい関係の人に対し、相手の年齢を推測し、自分の親族と見なすことによって、親族関係を成り立てようとする傾向がある。このような用法を「擬制親族意識」と名付ける。韓国の言語社会における擬制親族意識は、人間関係の親密度による感情的な側面と年齢の優勢による人間関係のなかで、円滑なコミュニケーションを営もうとするものである。

## 謝辞

本稿の作成中に行った調査では、多くの方々にご協力いただいた。とりわけ、深見先生には、本稿で用いたアンケート案の構成から分析までいろいろと相談に乗っていただいたことについて厚く御礼申し上げます。

## 参考文献

- 井出祥子 (1978) 「日本語における性別と人称代名詞」  
F・C・パン編『発達と習得における言語行動』, 文化評論出版
- 遠藤織枝 (1987) 『叢書・ことばの世界 気になる言葉 一日本語再検討』, 南雲堂
- 尾崎喜光 (1995) 「若者の敬語 一学校生活における自称詞・対称詞の使用状況一」  
『青少年問題』42-11  
(1997) 「学校の中のことば 一教師への

- 「さん」づけ—『国文学 解釈と教材の研究』42-7, 学燈社 1997-6
- 金水 敏 (1989) 「代名詞と人称」『日本語と日本語教育』4, 明治書院
- 金丸美美 (1993) 「人称代名詞・呼称」『日本語学』vol12, 明治書院
- 国広哲弥 (1990) 「呼称の諸問題」『日本語学』vol9, 明治書院
- 鈴木孝夫 (1973) 「人を表すことば」『ことばと文化』, 岩波書店
- (1967) 「トルコ語の親族用語に関する2, 3の覚え書き」『言語研究』51号
- 柴田 武 (1979) 「語彙体系としての親族名称—トルコ語・朝鮮語・日本語」川本茂雄・国広哲弥・林大編『日本の言語学5』, 大修館書店
- 谷泰 (1978) 『日本語と日本文化』, 朝日新聞社
- (1979) 「呼称選択行動の方法論的考察」『人類学方法論』, 京都大学人文科学研究所
- 米田正人 (1986) 「夫婦の呼び方」『言語生活』vol7, 筑摩書房
- (1990) 「ある社会組織の中の呼称 — 夫婦の呼び方と職場での呼びかけについて—」『日本語学』vol9, 明治書院
- 原 忠彦 (1979) 「親族名称」原忠彦・末成道男・清水昭俊編『ふおるく叢書9・仲間』, 弘文堂
- 渡辺友左 (1978) 「親族語彙の全国概観」日本方言研究会・柴田武編『日本方言の語彙』, 三省堂
- 姜信沆 (1967) 「現代国語の家族名称について」『大東文化研究4集』, 成均館大75-115
- 金東俊 (1989) 「現代韓国語の対者待遇法の体系」『神田外語大学紀要』1
- KIM Han-kon (1983) 「Korean Kinship Terminology: A Semantic Analysis II」『マル』第2集, ヨンセ大21-68 (韓国)
- 国立国語研究院 (2000) 『月刊朝鮮』デジタル朝鮮日報 (韓国, 韓国語)
- 羅聖淑 (1992) 「韓国と日本の言語行動の違い — 既婚女性の呼称を中心に—」『日本語学』11-13, 明治書院
- 文 珉永 (1989) 「国語親族語彙研究」仁荷大学大学院博士論文 (韓国語)
- 朴舜成 (1974) 「A Special Uses of Kinship Terms in Korean」『言語教育』6-2, ソウル大1-7 (韓国)
- 朴榮順 (1976) 「国語敬語法の社会言語学的研究」『国語国文学』72・73 (韓国語)
- 白同善 (1993) 「呼称表現に見られる日韓敬語法分析」『名古屋大学人文科学研究』22, 名古屋大学大学院文学研究科院生・研究生自治会
- 徐正洙 (1978) 「韓国現代敬語法の推移 — 最近の設問調査をもとにして—」『朝鮮学報』89, 朝鮮学会
- 林炫情 (1998) 「日本語と韓国語における呼称語の比較 — 自称詞と対称詞を中心に—」広島大学大学院国際協力研究科 修士論文
- Yoo Song-young (1998) 「国語呼称・指称語と聞き手待遇語尾の独立性」『国語学』vol32, 国語学会 (韓国語)
- 申恵環 (1986) 「韓国語の敬語意識の調査報告」, Sophia Linguistica Working Papers in Linguistics 20-21, 上智大学
- 全淑美 (1995) 「韓・日敬語用法の対照研究 — 話題の人物の待遇を中心に—」『日本語教育』85, 日本語教育学会
- 崔明玉 (1982a) 「親族名称と敬語法」『方言6』韓国精神文化研究院1-26 (韓国語)
- (1982b) 「親族名称の意味分析と変異, そして変化について」『肯浦趙奎高華甲論』, 螢雪出版社679-696 (韓国語)
- 韓先熙 (1994) 「韓国では夫をどう呼ぶか — 日本語との対照を交えて—」『ことば』15, 現代日本語研究会
- F・C・パン (1982) 「呼称の社会学—日米の比較」『日英語比較講座』第5巻, 大修館
- G・P・マードック (1986) 『社会構造—核家族の社会

人類学』内藤莞爾監訳，  
新泉社

Basso, K.H (1970) To Give Up on Words, *Southwestern Journal of Anthropology* 26 (3)

Brown, R., and A.Gilman (1960) The Pronouns of Power and Solidarity, In T.A.Sebeok (ed), *Style in Language*. M.I.T.

Ervin-Tripp, Susan (1964) An Analysis of the Interaction of Communication, In J.J.Gumperz and D.Hymes (ed), *American Anthropologist*, vol.66, no.6, part2

(1967) Sociolinguistics, In L.Berkowitz (ed), *Advances in Experimental Social Psychology*, vol.4

Spencer-Oatey, Helen (1996) Reconsidering Power and Distance, *Journal of Pragmatics* 26

## **Abstract**

### **An Overview on the Address Terms in Japanese and Korean**

Hyun jung LIM

Doctorate Candidate,

Graduate School for International Development and Cooperation (IDEC),

Hiroshima University, Higashi-Hiroshima 739-8529, Japan

How people select words to call each other can be a kind of index to show the relationship between them. Especially, in the situation of Japan and Korea, when people conduct conversations, they have to pay much attention to the word selection.

Both Japanese and Korean are similar in the following points:

Firstly, when calling each other, Japanese and Korean people greatly concern in selection of the address terms, which are reflected by the relationship of social stratification. Secondly, kinship terms are frequently extended from the family circle to non kinship.

What has been mentioned above can be defined as a general rule in both Japanese and Korean language. However some exceptions and differences are found in the actual situation.

The purpose of this study is to clarify the usage and characteristics of address terms, based on the result of questionnaire answered by Japanese speakers and Korean speakers in February, 2000.